京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

東京電報（廿九日）

▲獨皇太子歡迎

獨逸皇太子殿下は本年四月下旬御來朝に就き東京市にては盛んに歡迎すべく目下準備中なるが曩に英國コンノート殿下御來朝ありし時の例により諸般の設備を爲す事となり其の設備費として三萬圓を支出する事となりたり

▲入權蹂躪問題

東京辯護士會は昨年中に於ける當局者の人權蹂躪に關する事實を調査し之を根據として再び本期議會に陪審制度案を提出せんと目下熱心に奔走中なるが近く何等かの形式によりて之が實現を見るに至るべし

▲上院と商法改正

目下貴族院特別委員會に於て審議中なる商法中改正法律案は全然政治關係を放れて實際問題として當業者の意見に基き國民の利益を計るを目的とすべく今一二回にて大体の質問を終るべければ不日討論に入るべし

▲併合と政友會

政府對政友會妥協問題其の後の成行に付聞く處によれば今回の妥協問題は朝鮮併合に關する緊急勅令事後承諾に關するものにして政友會は政府の要求を容れ全体に對する承諾を與ふる事に決定したり

▲妥協問題と條件

妥協問題に關する政友會對政府の關係は殆んど內定したるものゝ如く其妥協條件として昨今寺內總督に對する政友會の態度極めて險惡にして到底其條件にては承諾を與へざるべくさ

れはとて衝突すれば朝鮮の治亂より打算して頗る困難に陷るを以て廣軌案を一ヶ年繼案として変※するか未成線の速成を條件とするか其の一に出づるやも知る可からず

▲公定割引步合引下

英蘭銀行は今回の重役會に於て公定割引步合二分の一方を引下げ四分に改定したる旨其筋に入電ありたり

雜報

●慶南の恩賜林會

慶尚南道咸安郡にては今回朝鮮總督府より兩班儒生及び耆老者に對して臨時恩賜金を下賜したるを記念し且つ之れ依りて地方產業の一端に資せんとし恩賜金拜受者河互洲外三十四名は拜受の當日直ちに協同して恩賜林會なるものを組織したる由なるが斯くの如きは恩賜金に對する聖上の御宸圖に添ふものにして寔に喜ぶべき現象なりと

●朝鮮棉花幹部

目下創立準備中なる朝鮮棉花會社は幹部特に社長の選定に惱み、日比谷平左衛門氏等に交涉したるも總て拒絕せられたる爲め、終に柿沼谷藏氏を推すとに內決し、町田豐千代氏の專務取締役、皆川芳藏氏の支配人を始めとして重役には悉く日比谷系を入るゝことゝなれり

●政務總監の訪問

二十九日午後一時より山縣政務總監は龍山駐劄軍司令部を訪ひ午後三時過ぎ歸邸したり

●軍司令官の病狀

大久保軍司令官は過般來病氣の爲め引籠靜養中なるが昨今漸次輕快に趣かれつゝあり大したること無かるべしと

●團隊長會議

第二師團司令部にては來る三十一日より二日間各團隊長を召集して會議を催ふす筈なるが列席者は松永師團長市川參謀長以下幕僚各部長等にして又地方よりは羅南步兵第二十五旅團長齋藤少將、河內、岡澤、大島、森の四步兵聯隊長、鈴方野砲兵第二聯隊長、藤縄騎兵第二聯隊長等也

●憲兵隊長會議

內地及び臺灣朝鮮所任の各憲兵隊長（二十一名）の軍事、司法行政警察に關する會議は二月十七日より約一週間東京憲兵司令部に於て開くことに決し各隊長は當日午前九時同部に出頭を命ぜられたり

議員候補者漫評

△△生

▲大橋清三郎君

君は高等商業學校在學中烏毛毛布の製法を案出して其特許を得又卒業後半島及滿洲の各地を漫遊して大に其智能を養ひ三十八年當地に移任せり其素養と人格は夙に衆望を博し現に商業會議所議員として令聞甚だ高し蓋し撰良の當を得たるものならんか

▲小林藤右衛門君

大學名刺の寄名を博したる小林君は奈良縣の出身に係り鄕に在りて地方官衙を歷任する數年後大阪に出でて商業に從事し一朝の異算の爲めに遂に家を擧げて當地に渡來しぬ其間波瀾極りなき徑路は君の人格を向上すゝ事幾等現に商業會議所議員の職に在り亦以て其聲望の一端を覗ひ得べけんか

▲池田長次郎君

少壯實業家の一人として夙に定論あり而して君は現に商業會議所議員に任じ居れるが滿身の覇氣屢々溢れて公共の問題に干與し遂に其勢力の存在を認識せらる思ふに君の如きは少壯候補者中稀に見るの畸國家なり

▲井出三郎君

身を大阪の商戰場裡に起し千辛萬苦具さに嘗め來りたる君は近來私に於ては大に其店舗の擴張を計り現に本町一丁目にデパートメントストアーを開始し又公に於ては多數有力者の聲援を得て單騎競爭場裡に立てり今や新進候補者二十を以て數ふ而して君の如きは識見人格に於て群を拔ける者か

▲天日常次郎君

君は石川縣の人、六年前京城に移住して精米業を始め今は在鮮同業者中の成功者と稱せらる、資性溫厚にして寡默而かも一度口を開けば人と議論を上下して倦むことなし、平生專ら業務に盡し多く社交界に現はれたることなきも其の勢實の有多く得易からずとして府能聯台軍に推されて候補たるに至れり

●龍山工兵隊長交迭

龍山駐劄工兵隊長矢嶋諦之氏は今回士官學校付に轉じ後任濟野才二氏二十六日着龍せりと

●宇佐川總裁ノ東上

二十七日午後十時四十分南大門發列車にて東上せり

朝鮮新教育制度

本月二十八日發行本紙掲載朝鮮新教育制度なる記事は誤聞に付き取消す

取消

本月二十八日貴紙所載朝鮮新教育制度と題する記事ハ事實相違に付該記事の全文御取消相成度候也

明治四十四年一月二十八日

朝鮮總督府學務局

京城新報社御中

選擧界彙報

▲選擧會準備成る

三十一日擧行の民會議員撰擧會は南大門小學校室內運動場を以て其事務室に充て既に各係を任命せしが其分擔は庶務係、受付係、投票用紙交付所係、朗讀係、會場取締係、設備係、採點係に別ち數名の役員詰當直を除き吏員總出を以て之に當る筈なり

▲朗讀係の重任

開票の際に於ける投票氏名朗讀係は一、二、三組に別ち各組に二名宛を配し立會人の面前に於て記入の氏名を朗讀するものなるが競爭の餘沫飛んで彼等の身邊に及び一朝不良手段の爲めに誘惑さるゝが如き事あらば由々敷一大事を惹起すべきを以て民團にては豫め其人撰を愼み且つ本人に嚴重なる戒告を與へ置けり

▲太平町支部大會

西部所屬太平町支部は田舍家に總會を開き候補者全部出席して各々所見を開陳せり而して從來同支部內は支離滅裂の狀ありて兎角統一を難んじ居りしが此會合によりて全然意志の疏通を見るに到り双方滿足を表して散會せりと

▲廻訪と人氣問題

各部の有權者も昨日より總出となり再度の有權者廻訪を始め居れるが前日來の雪解の爲め本町通一帶到る處泥濘脛を沒するの有樣なるより異口同意に昨今の人氣問題を口實とし「ぜふも斯んな道路では仕方がありません之、省みても早く市區改正の必要か感じます」と巧みに說得し居れるが孰れも良好なりしぞ

▲山口縣人と原氏

山口縣人會は曾我勉氏推薦を決定し事務所を南大門通一丁目村田源次郎氏方に設け既に之を發表せしが同會は二十八日午後七時より大會を開き同縣に最も緣故深き原勝一氏をも加へ曾我氏と共に極力推薦を誓ひたりと

▲奸黠なる流言

競爭の餘弊は遂に血で血を洗ふの悲劇を演じつゝあるが殊に惡むべきは關氏に對する流言なり氏は過日不測の負傷により目下總督府醫院に入院中なるが某々等の奸徒氏の生命旦夕に迫れりと稱し推薦者の意志を阻へさんと努め居れり

▲[redacted]

▲東部と大和町組

東部は二十八日午後七時より總會を開き出席者百餘名の多きを算せるが其異分子と稱せられ現に大和町江藤材木店に反旗を飜へし居れる神崎某等全部出席し居り頗る盛會なりき

▲元老と番狂せ

元老と稱すれば孰れも多少の誇負心ありて必ず當選疑なきものと信じ居りしが今回の選擧に就ては殆んど歸着點を失ひたるものゝ如く然れば愈々開票すれば空前の番狂はせを來さんと孰れも憂慮し居り

▲關東北と大橋氏

關東北人有志は大橋清三郎氏の爲めに大に聲援すべく決し事務所を黃金町三番戶に設けたり

▲中部の大勢定る

中部は團体として其結合最も固く隨て其勢力も亦大に見るべきものありしが昨日來一層協同一致の步調を執りつゝあれば十人の候補者孰れも樂觀し居れり

●觀光團渡來照會

栃木縣有志者は來る二月併合後の朝鮮各地を觀光すべく渡來の計畫あり其準備の爲各般の事項を當地某氏に照會し來れりと

●京城通信の解停

廿八日其筋より發行停止を命ぜられし同通信は廿八日夜解停されたり

●楢崎觀一氏榮轉

大阪每日新聞京城支局詰と高て令名高き楢崎觀一氏は今回北京同社支局詰に榮轉し近々赴任する由

●橫尾時事子東上

時事新報特派員橫尾信一郎氏は社務打合の爲め往復四週間の豫定を以て來る一日東上の由

●仁川鼠買上數

廿八日は百九十六頭にて五圓八十錢

各地選擧情報

民團法改正に關する運動の劇激なるは唯り我か京城のみに止まらざるは理の當然なり今聞くに從ふて各地逐鹿界の情勢を報道すれば左の如し

▲群山

候補者の何れも正々堂々を標榜せること他に異る所なきも加かも裏面に**御馳走政略**の行はるゝ事此れ又他に異る所なしコヮ現に群山日報餘錄子が「緣もゆかりもないものを捉へて無茶苦茶に御馳走する位なら我々には先づどうしていゝいゝ大門を閉めて貰はねばツリアヒが取れて來ぬ理」と云へるに徵して明なりとす开は兎に角今正面に顯はれたる候補者を擧ぐれば廣島縣友會の眞田茂吉、大分派の谷川太郎、實業側中正派の橋本央、林廷一、河野勘一、橫道只之助、山內兵八、北川淳の諸氏を擧け盛んに鎬を削り居れり

▲仁川

冷靜？の觀ありし仁川選擧界も投票期日の切迫すると同時に稍々色めき立てる模樣にして二十九日に至り初めて仁川中央公民會の名を以て力武、奥田、竹田津、沖津、加來、田中、桑野、頴原、秋田、平山、松太郎）諸氏の推薦廣告發表せられたり因に選擧立會人は茂木和三郎、網木仙吉、大崎熊之亟、朝倉外茂鐵、葛玉岩吉の五氏にして投票は卅一日午前九時より午後五時迄開票は翌一日午前九時なりと記し終りたるに報あり公民會の活動、激せられたる實業團は稻田勝彥、太田與吉、山下次郎、高木助市、藤村重助、久野數平、清水岩吉の諸氏を推し事務所を中町尾崎旅館に置き活動に着手したるに對し一進會は清水岩吉、坪江正雄、松村九助氏の當選を期し本町四丁目中村勝次郎氏方に事務所を置き猛烈に運動しつゝあるに更らに懇和會、仁川港民有志會の名を以て八田儀三郎、加藤藤太郎、清水岩吉、藤村九助、稻田勝彥、岩本保之助、山下次郎、樋口平吾、堀力太郎、美濃谷榮次郎の諸氏を推選すべく各派入亂ての活動目醒むる計りなり

▲平壤

京城に次ぐ亂戰なりと報道せらる十二名の定數に對する齋藤、岡崎、大橋、內田、神頭、宮川、伊藤、百瀬、森安、在間、板倉、澁谷、在間、和田、奥田、坪川、近藤の**十七氏**の多きに上り尚は二三野心家の蹶然として起つて此の混戰場裡に切り入り以て漁父の利を博せんとするものありと傳へらるゝされば最後の勝敗の如き遽に斷ずべからざるものあり而して孰れも各種團体の後援の下に少きも三名多きは十二名の**連名**を以て運動しつゝあるも中には夫れに飽足らず獨り自家の**名刺運動**を試みつゝあるに於てれや舊市街に於ける齋藤久太郎、伊藤佐七氏の如きも此の形勢に驅られたる居留民の擁默止し難く廿七日に至りて名乘りを上げたるものなりと云ふ

▲釜山

同地も京城と同じく殆んど混戰の姿にあるものゝ如く同地輸入商を中心とせる商工業者の大團體は二十七日に至りて蹶起し候補者として荻野彌左衛門、長谷川鑑太郎、小澤宇三郎、野口弘毅、山本純一、松前才助、水野嚴平、野宗三郎の八氏を擧げ推薦理由の如き書面を各有權者に配布したり又釜山日報編輯主幹久納重吉氏も西部多數の推選に依り候補たることを承諾し花々しく名乘りを揚げ廣島縣人會は伊藤甚三郎氏を推し防長派及び筑豐派、同盟を形成せんとし對州派は賓水町と聯合し大池忠助、福田增兵衛、小宮萬太郎、岩橋一郎、安武千代吉、武久捨吉を推選し其の他草梁派の五十嵐保氏は府民會の後援の下に田端派に肉迫しつゝありて形勢頗る混沌たり

▲大邱

十六名の定數に對し二**十四名の候補者**現出を見る從つて其の競爭の尋常ならざるを知るに足るべし今去る十九日有權者有志會に於て公認せられたる候補者名を擧ぐれば

●東部	西澤智	吉田壽一郎	吉武甲子男
	中原房一	赤穂消喜	向坂庄吉
●北部	佐藤周藏	町田久吾	加藤一郎
	木村竹太郎	尾崎鎮雄	
●西部	安松熊吉	岩瀬靜	田村權藏
	木村三四郎	古肝幹實	
●南中部	增田虎太	伊藤吉三郎	

單獨運動

にして定數を超ゆることこ名なるは其の後增加したるものあり故として同は各縣人會及び團体後援の下に單獨運動を開始したる戶會十六、堺萬三輪如鐵、川端正義、原田隆弘、森次郎、金森力三郎の諸氏なり

▲木浦

同地は何等の變調を見ず定數十二名なるに對し多數有權者會合して公認候補を撰定したるに福田有造、木村健夫、藤森利兵衛、村上直助、濱水近造、松井邑次郎、山野瀧三、谷村道助（以上舊議員）西野六藏、辻川四十郎、高田半次郎、麻生作男（以上新選）の十二氏に決定し二十五日を以て推薦廣告を發表したるに市民一般の與望又右諸氏ハ外に出でざるべしと云へば左したる競爭はなかるべしと推測せらる

公人

▲三浦彌深（龍岩浦領事）廿八日入京 ▲尾西要太郎（朝鮮新報記者）同 ▲佐伯光雄（春川金融組合理事）同

●京城座

引續き大入好評を博し居る兒嶋一座三十日の藝題は菊池幽芳氏の傑作として世間より大喝采を得し不知火全十二場にて重なる配役は司清之（岩村）藤崎友信（藤澤）藤崎二郎（吉井）松岡忠雄（山見）下僕吉助（小泉）友子（堀江）なり

●各署の鼠買上數

二十八日各署の捕鼠數南部署百二十九北部署七十八西大門分署六十二龍山分署五十八東大門分署四十二水門洞分署三十三匹なりと

●民團議員投票者注意

選擧當日は必ず實印持參せらるべく然らざれば投票するを得ずと

民團議員選擧笑報

連日報

▲人力車の乘逃げ

選擧期の切迫と共に激烈を極め從つて人車の來往頻るが如く今日此の頃人車の客は悉く候補者に非されば其の運動者にして各選擧事務所にては人車を備ひ上げて事務所に出入するもの何人と雖も乘るに任せ居るが往に滑稽なるは別派運動者が訪問して乘り捨てたる車は他派の運動者が乘と去つてるも知らざる客先生は更らに別派の運動者ハ車に乘じて去ると云ふ騷ぎ見て居ても目が迥る如なり

▲空屋だく

運動員の夫れのみには委し置かばずとあり此の頃の溫氣に冴え解けた泥田の中を血眼になつて禿頭から湯氣を立ち騰らせてオタマヤジクシが泥に醉つた如にヒヨロヒヨロと候補者自身の個別運動如何に努むる為めとは云へ御苦勞千萬の事と申すの外なし二十九日の事なり**東部の某候補**者掛の某い按摩さんの如に案內者に手を引かれて日の出町を戶別運動番數も追々と進みまして立ち出でました**日の出小學校前**連日の明頭に頭に血が上つて居ると見へて候補者は何んと思つてか手引の案內をも俟たず格子ガラリと引き開けて名刺を差出し御免御免と幾度聲を掛けても何の返事もないに候補者殿聊かムカツ腹の「**御免**」と怒鳴つた聲に先刻より候補の行衛を見失つてマゴマゴして居る手引殿大聲張り上げ「アー其所は空屋々々」

▲仁川港の出入船舶

▲三笠丸 三十日芝罘より入港
▲諏訪朔丸 同 大阪へ向出港

本日本紙二頁

京城居留民團公文

第三號公告
一金五十圓也　行旅病者收容費ヘ
右ハ侯城臺官舍伊藤ゲン子殿ヨリ亡夫朝鮮總督府囑托伊藤源三殿ノ葬儀ニ際シ香料ヲ寄セラレタル返禮ニ代ヘ當民團行旅病者收容費ヘ寄附相成候條此段公告ス
明治四十四年一月廿八日
京城居留民團民長　古城菅堂

第四號公告
一金一百圓也龍山小學校々舍修繕費ヘ
右ハ龍山榮町小林長兵衛殿ヨリ當民團立龍山尋常高等小學校々舍修繕費ヘ寄附相成候條此段公告ス
明治四十四年一月廿八日
京城居留民團民長　古城菅堂

第五號公告
一金一百圓也　小學校教育基金
右ハ總督府米倉町官舍藤原正文殿ヨリ故北堂紀念ノ爲當民團小學校教育基金ヘ寄附相成候條此段公告ス
明治四十四年一月廿八日
京城居留民團民長　古城菅堂

廣告

民團議員候補者
和田常市君
大橋清三郎君
淵上貞助君
深水清君
右民團議員トシテ適任者ト認メ推薦ス
京城有志者

民會議員候補者

（イロハ順）
田中始一郎君
大村保太郎君
釘本藤次郎君
前田熊市君
増田三穂君
松浦源治君
淵上貞助君
古城梅溪君
皆川廣濟君
三好和三郎君
右推薦候也
實業同志會
事務所　京城旭町三丁目　矢倉壽司席（電話一四一九番）

民團議員候補者（イロハ順）
岩田仙宗君
原勝一君
徳久米藏君
皆川廣濟君
右推薦ス
長谷川町一丁目
大安同志會
電話一〇七九番

京城民團民會議員候補者（イロハ順）
井出三郎君
田中常次郎君
曾我勉君
皆川廣濟君
右四氏ヲ最適任者ト認メ推薦ス
京城菓子商團体

京城民團議員公認候補者
明法學士　渡邊與三郎君
現民團議員　竹内菊太郎君
現總督府鐵道局副參事民團議員
右推薦候也
明治四十四年一月廿四日
龍山有志者一同

民團議員候補者
大橋清三郎君
右推薦す
關東北人會

推薦廣告
吾人は京龍の發展上最も公平の意見を持せる
田中常次郎君
を京城民團議員候補者に推薦す
京城龍山有志者一同

東部推撰民團議員候補
木島平兵衛君
君ノ守節ト至誠トニ信賴シ適當之候補者トシテ推薦ス
明治四十四年一月廿日
京龍時計商組合

推選廣告
岩田仙宗君
松浦源治君
右議員候補者トシテ適任ト認メ推選候也
京龍廣島縣人會

推薦廣告
京城居留民團民會議員候補者
中島司馬之助君
釘本藤次郎君
前田熊市君
關繁太郎君
右推薦候也
佐賀縣鄉友會

京城居留民團民會議員
東部繁榮會候補者（イロハ順）
石井新君
大橋清三郎君
梶原末太郎君
田村義次郎君
釘本藤次郎君
淵上貞助君
古城梅溪君
近藤佐五郎君
木島平兵衛君
關繁太郎君
右推薦候也
東部繁榮會

京城居留民團民會議員
西部候補者（イロハ順）
池田長次郎君
大村保太郎君
海津三雄君
高橋章之助君
曾我勉君
中島司馬之助君
松浦源治君
深水清君
榊原長緒君
三好和三郎君
右推薦候也
西部有權者
選擧事務所

天日常次郎君
右京城民團議員候補者に推選候也
加越能鄉友會有志

推選廣告
前田熊市君
松浦源治君
右民團議員候補者に推薦す
本町二丁目有志

京城居留民團民會議員候補者（いろは順）
池田長次郎君
林田金次郎君
大村保太郎君
中村再造君
山口太兵衛君
増田三穂君
秋吉富太郎君
城六太君
榊原長緒君
森勝次君
右推薦候也
京城本町一丁目本田旅館方
南高同志會選擧事務所
電話百六番

本組合は左記議員を推選す（いろは順）
井出三郎君
石井新君
大橋清三郎君
曾我勉君
深水清君
小林藤右工門君
天日常次郎君
皆川廣濟君
京城土木建築職工組合事務所

京城居留民會議員候補者（イロハ順）
林田金次郎君
和田常市君
中村再造君
山口太兵衛君
松永達次郎君
増田三穂君
小林藤右工門君
秋吉富太郎君
城六太君
森勝次君
右推薦候也
中部同志會
